

Newsletter

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所

第4回ビジネスプランコンテストを開催しました

ベンチャービジネス研究所長 経営学部教授 田 淵 正 信

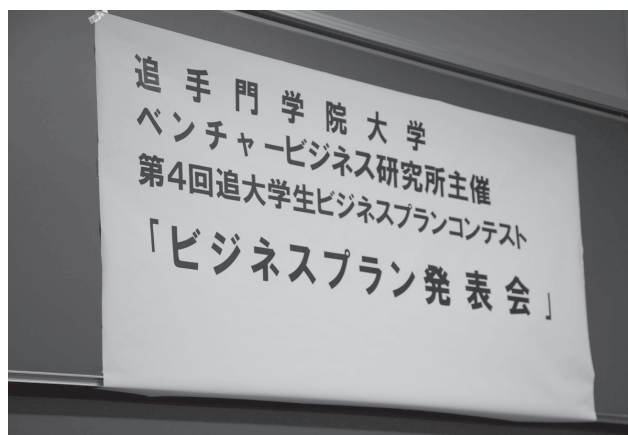
今年のビジネスプランコンテストには43組の申し込みがありました。第二次審査には20組が進み11月30日(土)に参加者による発表と審査が行われ、午後からは懇親会をしながら結果発表と表彰式も行われました。参加者の皆様、審査員の先生方、ご指導頂いた先生方に心より感謝申し上げます。

今年から、大学生のチームには追手門学院大学生が参加していることという参加条件を加えました。そのため、参加者が減るのではないかと心配したのですが、全くの杞憂でした。大学と高校の多くの先生方のご支援によって先のように43組もの参加となったものと思います。ご支援ご指導感謝申し上げます。また、今年のビジネスプランコンテストの募集パンフレットチラシも参加者増加に大きく寄与したものと思います。二人の人物の間にビジネスプランが浮かぶ瞬間がシンボリックに表されています。素晴らしい広告が人を引き付ける事例だったと思います。

今年のビジネスプランを見ていて、学生、高校生が自

分自身、日常的に関わっているスマートフォンやコンビニ、或いは大学生活の中でヒントを得てそれを解決する案を考えてビジネスの種（シーズ）として提案されたものが多くありました。これは、ビジネスプランが空想から生まれるものではなく、日々の生活や仕事の中での鋭い感受性とそれにこだわってみる集中力と持続力から生まれます。参加者がそこを掴んでくれたことは本コンテストの目的とするところであり、彼ら彼女らが就職活動を行う上でも、社会に出てからも役に立つ資質だと思います。このコンテストに参加するために苦労した経験を糧として一層成長してほしいと思います。

また、「4回の歴史を重ねてきて、そのビジネスプランの一つでも実現に向けて前進させてゆく必要があるのではないか。」という助言を審査員や指導された教員の方から頂きました。ベンチャービジネス研究所が大学の研究機関である限り、学生を教育する責任があると考えます。そ



の一環として行われるビジネスプランコンテストですから、その発表に至るプロセスそのものが教育であるということには間違いありませんが、一步進めて、参加者の提案を一つでも実現して行くことにより、ビジネスを起こす起業の難しさを学ぶと同時に、後に続く後輩の目標になってもらう



ことも研究所としてのテーマとする必要があると思います。

来年も素晴らしい発表を期待すると同時に、ベンチャービジネス研究所自身としてより進んだコミットメントを模索し目指したいと考えます。



第4回追大学生ビジネスプランコンテスト＜感想＞

今回、初めてビジネスプラン発表会の審査員をさせていただきました。

発表組数が20組と非常に多く、甲乙つけづかったというのが本音です。

若者のアイデアらしく斬新で、社会貢献性に富んだものが多かったと思われます。

高校生が提案された第一次コンビニ自動設備化計画2013にいたっては、高齢者と子どもたちへの配慮がなされ、お客様への優しさが感じられました。

現代社会を物語っているようなアプリケーションを使ったものが多く、学生が今便利と思うもの、また、追バス英

審査員 茨木商工会議所 専務理事 木村 正文

語塾にいたっては、大学の経営に関するもので、ぜひ大学も検討されてはどうかと感じました。

さらに、大学をターゲットにしたものにいたっては、学内でプレゼンテーションのコンペでもされたら“おもしろい”と、私自身思いました。

全体的に実用化するには、初期投資の金額が多く、捻出が難しいと思われます。

アイデアは、他から真似されるおそれがあり、原価計算の考え方をしっかり身につけて、経営の勉強をされれば、必ず実用化されると信じています。

第4回追大学生ビジネスプランコンテスト「ビジネスプラン発表会」の感想

審査員 (株)日本政策金融公庫吹田支店支店長 古川 隆三

今回、審査員として参加させていただきました。日ごろは、事業をしておられる方、これから事業を創める方の事業計画を拝見していますが、大学生と高校生の考えられたビジネスプランの発表会ということで、興味と期待を持ち

拝聴しました。

また、アイデア（着眼点や発想）をビジネスプランとして練り上げ、そして限られた時間で素晴らしい発表を行った皆さんに惜しみない拍手を贈りたいと思います。また、

ご指導された先生方、ビジネスプランコンテストの開催準備に関われた皆様のご努力に深い敬意を表します。

私ども日本政策金融公庫国民生活事業では、融資や情報提供などを通じて小規模事業者をサポートしていますが、創業前および創業後間もない方への融資や事業計画の策定の際のアドバイスにも力を注いでおります。ちなみに、昨年度の創業企業（創業前及び創業後1年以内）への融資は年間約2万企業となっています。これにより、年間7万7千人の雇用が創出されたと考えられます。

新規開業は起業家の夢を実現するばかりでなく、地域経済の活性化や雇用創出の面で地域貢献にもつながっています。活力ある日本を創り、地域を活性化するには、次世代を担う若者の力が必要です。高校や大学の時から、開業についての知識を身につける機会を増やし、開業を志望する意識を醸成することが大切だと感じています。その意味で、今回で第4回を迎える貴大学のビジネスプランコンテストは意義が深いことです。

発表されたテーマは多岐にわたりますが、総じて商品やサービスに大学生、高校生ならではのユニークな発想や着眼点が確認できました。また、市場性として、具体的な市場・顧客を想定し、利用者にメリットがあるか、一定の市場規模が見込まれるか、といった検討もほとんどのグループで実施されていました。プレゼンテーションも含めて、

大きな優劣はないと思います。ただ、「事業としての可能性」の充実度に差があったと思います。それは、必要な経営資源（ヒト、モノ、カネ、技術、ノウハウなど）が十分に考慮され、資金計画や収支計画に生かされたか、という点です。

今回発表されたビジネスプランの多くは、普段の生活や大学内の様々な環境をもつと快適に満足度の高いものにしたという着眼点で始まっています。その発想は全てのビジネスプラン策定の原点とも言え、若者らしくて好感が持てました。さらに、高齢者への配慮や保育、災害もテーマにした取り組みも、社会貢献の必要性を学生の目線で認識したものであり、大いに評価したいと思います。

加えて今回、高校生3組が応募され、立派に発表に組み込まれました。おそらく、アイデアからスタートして事業化に向けたプランを練ることの難しさを感じた反面、受検勉強では味わうことのできない楽しさを味わったのではないかと感じます。

ビジネスプランコンテストへ参加された学生の皆さんへ、この貴重な経験を活かして、今後さらにレベル高いプランの作成にチャレンジされ、起業家精神を養われることを期待しております。また、追手門学院大学並びにベンチャービジネス研究所の益々の発展を祈念いたします。

第4回追大学生ビジネスプランコンテスト＜感想＞

審査員 本学客員教授 牧 美喜男
(ベンチャービジネス研究所顧問)

さまざまな発表を楽しんだ。現在の若者は大人しいと考えていたが、面白いことを一杯考えているのが分かった。ビジネスプランコンテストと称されていたが、ビジネスに結びつきそうなプランもあれば、ビジネス性はあまりなく学園アプリなど学園生活での体験の拡大や利便性の向上に役立つであろうというプランもあった。またコンビニ自動設備化計画などは、弱者を思いやる目を持っていると感じうれしくなった。「コンビニ×保育園×カフェ」プランは、身近な存在であるコンビニと将来の母になる自分の姿を思い浮かべての発想と想像した。センサー開発費や噴射機などのコストで現在では実現は困難と思われるが、「虫ノン」などが各部屋にあることなど想像するだけで愉快だ。実現可能性から考え追大菜園化大作戦を押したい。学院の協力があればあと必要なものは、学生の熱意と労力提供で

あろう。ということは他のプランと違い、本気になればすぐにも実現可能ということだ。やれば一生残る経験になり、実現した最初のビジネスプランと鼻高々で報告できる。何でも最初の栄誉が大事だ。（追大一期生の作家宮本輝さんは、新入生の時テニスコートを作りたいと希望した。予算もないと言われ初代学院長に嘆願し、学院長のポケットマネーをもらい、同志の学生とテニスコートを作った。一生の誇りとなった経験をされたように思う。文章からも誇りが伝わってくる。）農業技術を学生時代に身につければ、実生活においても鬼に金棒だ。彼女にあれば彼氏にアピール出来る芸を持つことになる。地域農家と是非交わってほしい。彼らの悩み（後継者問題等）に、突き当たるかもしれない。食の安全に気づくかもしれない。是非来年の発表会では実行したとの報告が欲しい。プランと現実

の差を報告してほしい。ビジネスプランコンテストに、新たな学びが生まれると信ずる。追手門アプリについてはベンチャー研究所の田淵先生も最後に述べられていたように、学院に対する貴重な顧客（学生）の要望と捉える事が出来る。実現できれば顧客（学生）満足度が向上し、田淵先生も“ドヤ顔”が出来るであろう。

学生の皆さんも良く知っていると思うが、1990年以降の失われた20年で日本の産業の競争力は格段に落ちた。日本の国際的地位の低下は経済面でも著しいものがある。日本が最強を誇った産業分野でも日本と韓国の地位が逆転するなど一昔前では想像も及ばなかったことが起こっている。「技術力で優るが、事業で負ける」であり、米国に比べ圧倒的に起業家が少ない日本の現実がある。ここを改革しな

ければ、日本は再浮上しない。学生を観察していると、圧倒的に大企業志望・志向の人が多い。企業入社志望の人に言うておこう。起業家精神は経営者に不可欠の条件であり、目標達成への執念、機会を発見する能力、広い人的ネットワークに支えられている。大企業で一番必要なものは起業家精神であると言っても過言ではない。とこんな公式的なことはこれぐらいにしておこう。

聞けば今年は例年にも増して、コンテスト参加者が多く、出場出来なかったグループもあると聞いた。追手門の学生は元気がある。是非現状を観察する目を養い、解決や改革を求めている物を見つけ、行動に移す訓練を学生時代に養って欲しいと考えている。

第4回追大学生ビジネスプランコンテスト＜感想＞

審査員 本学経営学研究科OB・株式会社リズカンパニー執行役員 光枝 宏剛

こんにちは。株式会社リズカンパニーの光枝です。

先日のビジネスプラン発表会では、御大学の卒業生、社会に出てビジネスを行う者として、参加させていただきました。

多くの学生のプレゼンテーションを拝見させていただき、まず、卒業生として、多くの後輩がビジネスプラン発表会に参加し、学問の幅を超え、実践を考えた場に興味を持ったことに嬉しく感じております。

全ての学生が、学生ならではの柔軟な考え方と夢のあるビジネスプランを緊張の中にも、一生懸命に発表をしておられ、審査員として、点数を付け、優劣を付けるのはとても難しく、悩ましいものでした。

今後、発表された学生達が起業や社会人、もしくはその他の道に進まれた時に、今回、発表された1つの成果物を作り上げたことは、とても価値のあることだと思います。

また、今回のビジネスプラン発表会では、高校生も発表をされており、大学生と比べても、遜色ないプレゼンテーションを拝見することができ、ぜひ、追手門学院大学に進学していただき、今回のビジネスプランをさらに練り上げて、起業という道を選択肢として足していただければと思います。

今回、審査員を務めさせていただき、大変光栄でした。今後の御大学と御大学の学生達のご発展を祈っております。

第4回追大学生ビジネスプランコンテスト＜感想＞

審査員 経営学部 准教授 岡崎 利美
(ベンチャービジネス研究所所員)

第4回となった今年の追大学生ビジネスプランコンテストには多くの応募があり、一次審査を経て選ばれた20組、58名による「ビジネスプラン発表会」が11月30日に実施された。

今回の発表会の最大の特徴は、発表者の多様性だろう。まず、追手門学院大手前高校から3組、総勢12名の3年生の生徒さんたちの参加があった。日頃経営学を学んでいる大学生のものと比較するとプラン内容には粗さが目立った

が、緊張した表情での発表は初々しいばかりでなく、十分に準備して臨んだことも伝わってきた。

大学生の発表者の中では、今回は他学部である経済学部からの参加があった。また経営学部生でも、これまではゼミ教育の一環として応募することが多かったが、今回は1回生から就職活動を経た4回生まで、自主的に参加した個人参加も多かった。

ビジネスプランは全体としてよく練られたものが多かった。「こんなものがあつたらいいのになあ」という思いつきのレベルではなく、「ビジネスとして成立するか」、つまりお金を払ってもらえるかという視点をもつ発表者が多

かったことは好ましいことである。次の段階として、誰をターゲットにするかということをもっと深く考えれば、実現可能性が飛躍的に上昇されるだろう。審査員からのコメントでもあったとおり、サービスの利用者は必ずしもサービスの買い手、つまりお金を払ってくれる人ではない。発想の転換のヒントは、多くの学生が所属する経営学部のさまざまな講義のなかで、数多く紹介されている。今後の講義のなかでそれらのポイントを聞き流さないようにしてほしい。

第4回追大学生ビジネスプランコンテスト＜感想＞

審査員 経営学部 講師 宮崎 崇将
(ベンチャービジネス研究所所員)

今夏本学に着任し、初めてのビジネスプラン・コンテストで、審査員という大役を任されたため、発表する学生たちと同じように緊張をしながら企画に参加しました。本年は40名を超える多数の応募者があり、第一次選考が行われ、その選考にも参加しましたが、その段階ではまだまだアイデアだけの荒削りなものも散見され、若干不安を覚える面もありました。しかし、選考を経て当日発表した20組は、それぞれに工夫され、個性があり、おもしろいものが多く、楽しくきくことができました。特に、優秀賞に輝いた発表は、既にビジネス化されているのではないかと考えてしまうほど、水準の高いものでした。以下では、発表をきいて印象に残ったことを若干述べていきます。

まず、最近の洗濯用洗剤の差別化要因となっている香りに関して、洗剤と柔軟剤の香りをあわせるとどうなるのかという母親の悩みを解決することを目的とした「香りシミュレーション」など身近なニーズに着目したものや、大学生活をより良くするにはどうしたらよいのだろうかという点から出発した「追大アプリ」や「追バス英語塾」など、ぼんやりとしたものではなく、自分自身の生活を具体的に改善することを出発点にしている点がよかったです。

また、ネーミングの良さというのが印象に残りました。「ばるーん傘」や「薫るせんぷうき」など、音の響きや文字の感じから、「内容をしりたいな」「どんな商品なんだろう」とワクワクするような商品・サービス名が名づけられており、ネーミングのうまさを感じました。

いくつかの報告では、SWOT分析など経営学の講義で学

ぶ知識が活かされていましたが、全体としては大学で学ぶ知識が十分に活用されていなかったように思いました。ポーターのファイブ・フォースや競争戦略、あるいはマーケティング・ミックス（4P）など講義の中で学ぶ理論やフレームワークは、こういった報告を考える際にも活用できるものであり、是非そうした講義で得た知識というのをもっと活用して欲しいと感じました。

発表時間に関して、今回は20組の報告があり、発表が6分、質疑応答が3分という時間設定になっていました。全体の時間と、報告数からいって妥当であるが、もう少し内容を詳しく聴いてみたい企画や、おもしろい報告をしてみようかとがんばっている学生などもおり、もう少し時間が長い方がより内容や報告が工夫されたものがきけるのではないかと感じました。

以上のように、単独の大学で行った企画としては、総じて水準の高い報告であり、また、田淵先生の巧みな司会によって、時間の長さを感じさせない充実した企画でした。次年度以降さらなる発展に期待したいと思います。

ベンチャービジネス研究所主催
第4回追大学生ビジネスプランコンテスト



最終結果の発表



＜優秀賞1組＞（副賞 QUO カード 5 万円分）

仲村 厚輝 （経営学部 4 回生）

「3D プリンタでスマホカバー製作 E C サイト」

＜奨励賞4組＞（副賞 QUO カード 3 万円分）

★木澤 章行（経営学部3回生）「魁！追バス英語塾」

★朴ゼミ・C 班 （代）西村 優斗（経営学部2回生）「ボフッとボート」

★西山 貴裕（経営学部3回生）「クラウドファンディング型アニメ投資会社」

★山元 麻梨子（経営学部4回生）「DIY クラフトサイバーモール」

＜佳作7組＞（副賞 QUO カード 5 千円分）

★井上 雅之（経営学部2回生） 「スマートフォンオーダーシステム」

★追手門学院大手前高校D班（代）小林 隆志（追手門学院大手前高等学校3年生）

「第一次コンビニ自動ドア化計画 2013 ～真のコンビニエンスを目指して～」

★李ゼミA班（代）是方 理香（経営学部2回生） 「より良い学生生活に！追大アプリ！！」

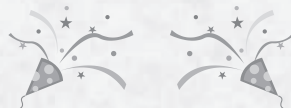
★チーム竜巻 （代）陣出 健太（経営学部2,3回生） 「追大☆菜園化大作戦！」

★李ゼミグループA（代）鈴木 智香子（経営学部3回生） 「薫るせんぷうき」

★三木 啓悟（経済学部1回生） 「飛び出す日本人学生！」

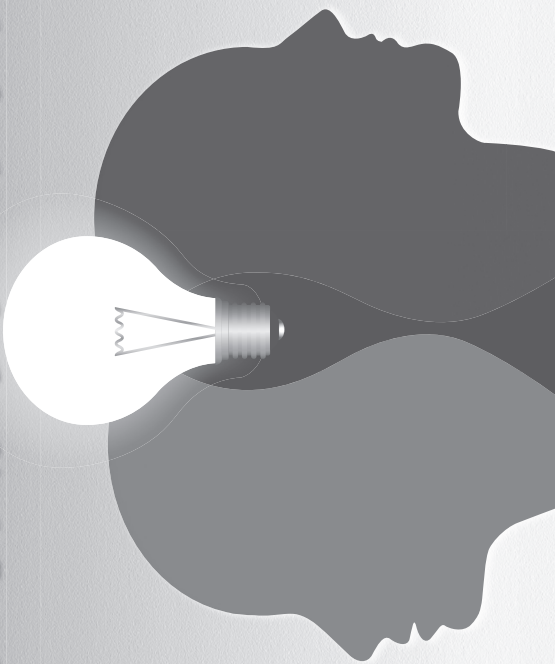
★味谷 和樹（経営学部1回生） 「香りシュミレーション」

※50 音順



第4回 追大学生

ビジネスプランコンテスト



学生の皆様によるビジネスプランやビジネスアイデアの提案を募集します。

たくさんのご応募をお待ちしております。

応募資格 大阪府下の高校、大学、大学院に通う学生（個人またはグループ、ただし、大学生、大学院生の場合は、追手門学院大学の学生個人か、1人以上の追手門学院大学学生を含むグループ）。

募集期間 平成25年8月1日(木)～11月1日(金)まで
(第1次審査) (第2次審査は平成25年11月30日(土)追手門学院大学5301教室にて)

賞 優秀賞 QUOカード5万円分 1組 審査員 ペンチャービジネス研究所内審査委員会
奨励賞 QUOカード3万円分 4組
佳作 QUOカード5千円分 7組 ●応募方法等の詳しい内容は裏面をご覧ください。

主催 追手門学院大学ベンチャービジネス研究所(中央棟1階)
〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15(TEL: 072-641-7374)
H.P.: <http://www.otemon.ac.jp/investigation/labo/venture/>
Email: venture@ml.ccille.otemon.ac.jp
(月・水・金 9:15～16:00 事務員 宮下)

独立自彊・社会有為～自由と調和の人間教育をめざして～
OTEMON GAKUIN UNIVERSITY

50!
追手門学院大学
変わるもん、おうてもん。
2016年に創立50周年を迎えます

第4回 追大学生ビジネスプランコンテスト 募集要項

① 趣旨

本学の教育理念(目的)は「独立自彊・社会有為～自由と調和の人間教育をめざして～」です。その実践事業の一つとして、ベンチャービジネス研究所では、学生による「ビジネスプランの作成と発表」の場を設けます。これによって起業家マインドの醸成と起業の正しいあり方への関心が高まることを期待します。

② 募集内容

ニーズがあるものでこれまでに供給がなかった、社会に役立つビジネスプラン・アイデア。

③ 応募資格

大阪府下の高校、大学、大学院に通う学生（個人またはグループ。ただし、大学生、大学院生の場合は、追手門学院大学の学生個人か、1人以上の追手門学院大学学生を含むグループ）。プラン・アイデアの内容が異なれば何件でも応募することができます。

④ 審査基準

プラン・アイデアの新規性、市場性、実現可能性、成長性、社会貢献性、及び、プレゼンテーション能力。

⑤ 審査員

本学ベンチャービジネス研究所の所員・研究員・顧問の中から審査委員会を設けて審査します。

⑥ 審査方法とスケジュール

- (1) 第1次審査: 8月1日(木)～11月1日(金)
 - ・提出された書類を基に審査を行います。
 - ・審査結果を11月初旬にメールで通知します。
- (2) 第2次審査: 11月30日(土) (会場)追手門学院大学5301教室
 - ・ビジネスプラン発表会でのプレゼンテーション(パワーポイント等を使用)を基に審査します。発表会と第2次審査の後、結果発表と表彰を行います。

⑦ 応募方法

所定の応募申込書に必要事項を記入の上、下記事務室まで持参もしくは郵送(各種メディアにて)、またはメールでご応募下さい。(必ずデータにてお申込みください。)応募申込書は下記のホームページからダウンロードして下さい。プラン・アイデア1つにつき応募申込書1部が必要です。
H.P.: <http://www.otemon.ac.jp/investigation/labo/venture/>

⑧ 提出先・問合せ先

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所(中央棟1階)
〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 TEL: 072-641-7374 FAX: 072-643-9597
Email: venture@ml.ccille.otemon.ac.jp (月・水・金 9:15～16:00 事務員 宮下)

⑨ 募集期間 平成25年8月1日(木)から平成25年11月1日(金)まで必着

⑩ 賞状と賞金

●優秀賞 QUOカード5万円分 1組 ●奨励賞 QUOカード3万円分 4組 ●佳作 QUOカード5千円分 7組

⑪ その他の注意事項

応募プランの知的所有権は応募者に帰属します。受賞したプランは、応募者に了解を得て、概要を公表します。審査結果の発表後、盗作や虚偽の事実等が判明した場合は受賞資格となります。その他、応募に関して、何かご不明な点がありましたら、上記問合せ先まで、ご遠慮なくご質問ください。

ビジネスプランコンテスト 優秀賞

「Smashion」

仲村 厚輝（経営学部 4 回生）

まず、今回のビジネスプランコンテストで一番感じた事はアイデアを本格的に事業化する難しさです。

自分は普段から生活している中で何か事業化できそうなアイデアが思いつけばメモをする習慣を心がけていて、今回そのメモをしたアイデアの中からこの「Smashion」を選びました。

数あるアイデアの中からこのアイデアを事業化しようと思ったきっかけは新規性、市場性に自信があり、自分の興味のある分野だったからです。

しかし最初の想定していたビジネスモデルを調べると類似している他社が既に存在していて、様々な業種の成功しているビジネスモデルの良い部分を組み合わせて、そこにこれから伸びそうなニッチな市場を探した結果スマートフォンカバーの市場に目をつけ市場分析をし、他にない新しいビジネスプランを作る事ができました。

しかし実際にビジネスプランを発表するに向けて発表用資料を作る際、短時間で皆様に事業の全てを知ってもらう為に、どこを重点に、どの様な順番で、どんな風な見た目にするかといった点を工夫する事にとっても苦労しました。

実際に発表させて頂いた内容以外にもたくさん伝えたい要素がありましたが、時間内に一通り伝える事ができ、優秀賞も頂けたので、発表内容に関しては良かったと思います。

今後の課題は自分の考えたアイデアを更に磨きをかけ、事業に関わる様々な関係者に共感して頂く為に発表する機会を積極的に増やしていき、ビジネスで上手に喋る能力を高めていきたいと思っています。



はじめに……

現在スマートフォンは私たちの生活で欠かすことのできない存在になっている……

SMASHION (スマッション)

経営学部 マーケティング学科
10MA206
仲村 厚輝

スマートフォンはファッションアイテムの一部でもあり
どんなカバーをつけているかでその人の個性が分かる
自分の分身の様なモノです。

この事業の最大の目的は洋服の様に季節や気分
・目的などでスマホカバーも着せ替える文化を定着することです。

「スマホファッション」の創造

Smashion

「Smashion」とはスマホカバーのデザインをスマホ上で
誰でも簡単に作ることができ、販売もできるスマートフォンアプリ

ユーザーがアプリを使ってできる事

- ◇オリジナルのスマホカバーのデザイン作成
- ◇自分が作成したカバー（デザイン）の販売
- ◇他のユーザーが作成したカバーの購入

概要

作る

◆ アプリ内のデザイン制作ツールでオリジナルデザインを作成
（簡単にデザインを作れる要素）

- ① あらかじめ用意されている図形や文字フォントを組み合わせて作成
- ② 撮影した写真をデコレーションして作成
- ③ テンプレート（他のユーザーが作成したデザイン）を基に自分風にアレンジして作成



簡単に遊び感覚でデ
ザインを作ることがで
きる！！

概要

売る

ユーザー（デザイナー） 作成したデザインをアプリ内のネット上へアップする



ユーザー（購入者） そのデザインを見て気に入ったユーザーが購入

（販売価額は全て均一価額）



自社 自社がデザインを現物化し購入者へ配送する

オリジナリティ

小さい頃に夢中になったこれらのおもちゃでの遊び
なぜ、あれだけ夢中になったのか？
なぜ、あれだけヒットしたのか？
その理由として共通点がある。それは・・・

「自分の作成したおもちゃを友達に自慢し褒めてもらう事で気分が良くなり、またより良く作ろうとする。」

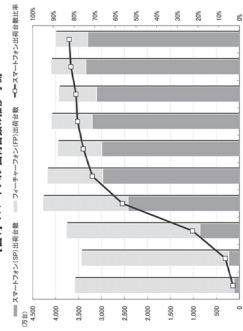
この感性を大人になっても味わえないか？

「Smashion」のプラン作成

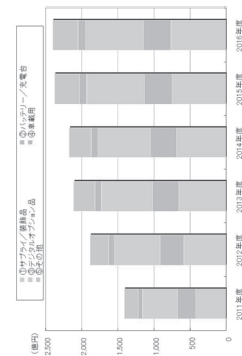


市場分析

【図1】スマートフォン出荷台数の推移・予測



アクセサリ/周辺機器の市場規模予測～2016年度～



スマートフォンユーザーが年々増加していて将来的にも伸びしろの価値が高いことは既に行われているが、その裏でアクセサリの市場も拡大している。

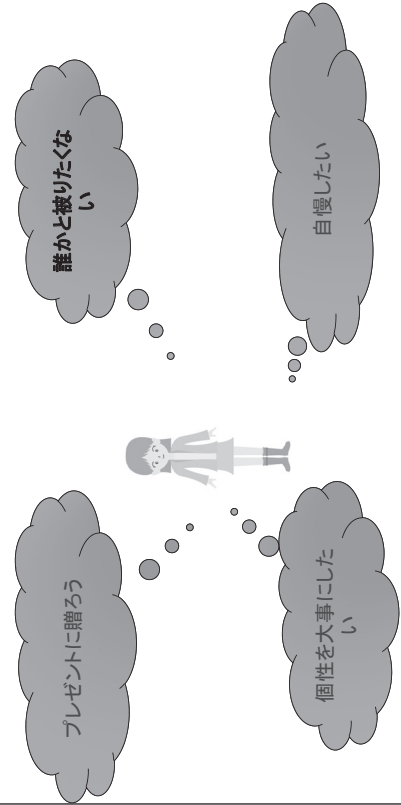
ニッチな分野で伸びしろがある

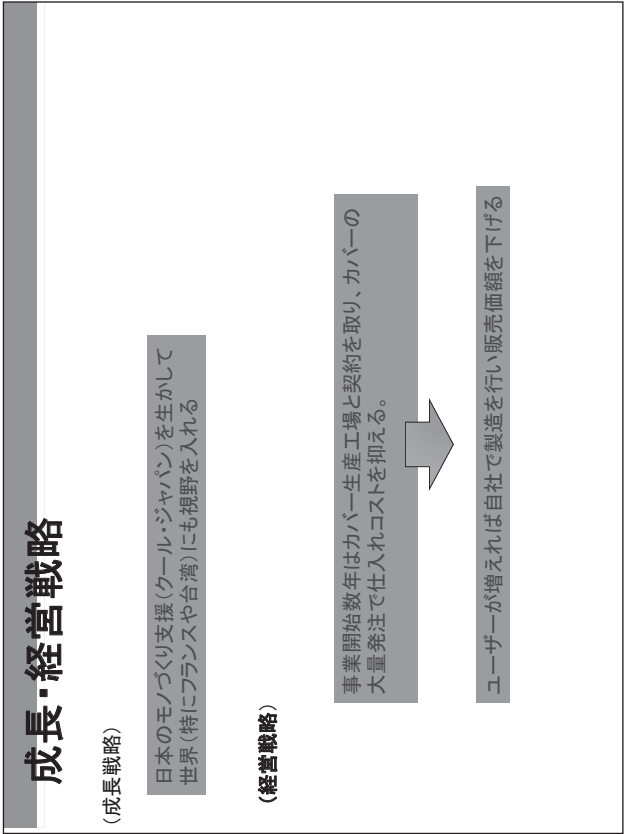
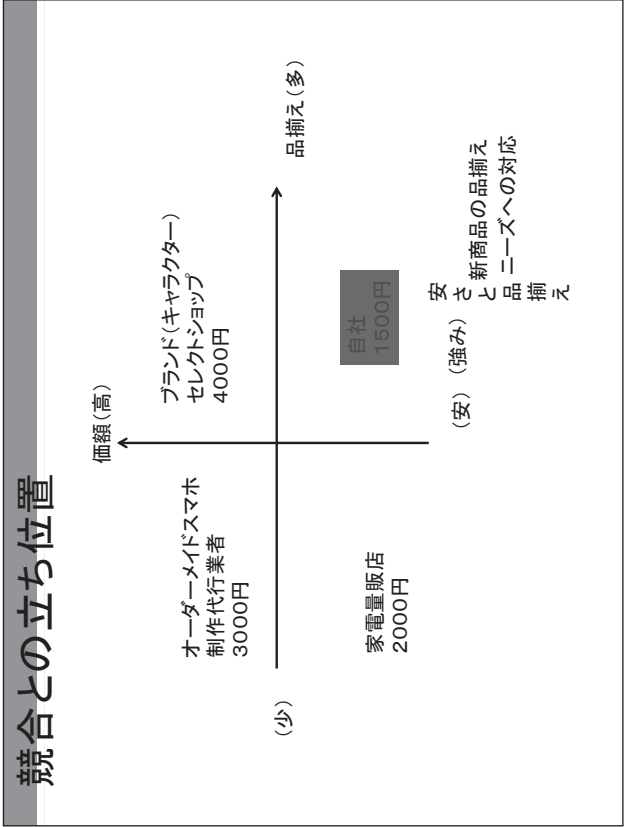
将来性

好適材料

ターゲット・ニーズ

ファッション感度の高い10～20代のスマホユーザー
（コア・ターゲット）





資金計画

単位:千円

	1年目	2年目	3年目
資金調達	10200	1000000	1500000
資金使途	web・アプリ開発 運営費	プリンタなど 備品 人件費 システム運営	備品 人件費 システム運営

会員募集

(対象：全学年、大学院生)

1. アプリ研究会

一緒にアプリを作って起業しませんか？



2. 起業研究会

ベンチャービジネスの研究や会社の起業に
挑戦しませんか？

会社の作り方、マーケティング、事業計画、人材育成、株式公開

3. 事業承継研究会

事業承継と企業革新、M&A

事業承継と税金、会社訪問

お問い合わせ先

追大ベンチャービジネス研究所（中央棟 1 F）

TEL:072-641-7374（月・水・金 9:15~16:00）

mail:venture@ml.ccile.otemon.ac.jp

http://www.otemon.ac.jp/investigation/labo/venture



平成26年度 学生研究会メンバー募集中 先生方からも是非ご推薦下さい。

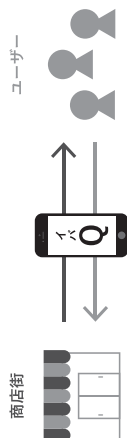
1. アプリ研究会カリキュラム

- | | |
|---|--|
| # 1 準備課題の提出と発表
開発環境Xcodeのインストールと基本的な使い方、
最も初歩的なアプリを作成する | # 6 応用的なプログラムの知識 |
| # 2 インターフェースとプログラムの関係
商店街アプリの内容をプレーン・ストーミングを
して決定する | # 7 アプリ開発の流れ |
| # 3 プログラミングの文法・メソッドを学ぶ
計算アプリの作成 | # 8 第二のアプリについてプレゼン・決定し開発開始、
応用1・カメラの利用と画像加工 |
| # 4 商店街アプリの作成
アプリのデザイン要素を学ぶ | # 9 商店街アプリ・第二のアプリ開発
応用2・地図とデータベース |
| # 5 オブジェクト指向とは
第二のアプリの検討 | # 10 商店街アプリ・第二のアプリの基本形完成 |
| | # 11~# 15 1月から2月上旬に完成に向けて5回実施
する。 |

追手門学院大学生 × 茨木商店街

参加型クイズアプリ「イバQ」を
追手門学院大学生が開発中！

茨木商店街の活性化を目的としたスマホ向けクイズアプリ



親しみやすい RPG の世界観
レベルアップ・新しいステージなど

茨木に関するクイズが
出題される

あなたも出題者！

イバQアプリ内でクイズ・正解の答え・不正解の答えを登録

→ イバQスタッフが適正な問題かどうかをチェックしクイズに採用



追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所 アプリ研究会



アプリで遊んで
商店街へ行こう

クイズに正解すると
ポイント GET！

ポイントを使って
ガラガラくじに挑戦！
クーポンを GET！

茨木商店街での
買い物・食事が
お得に！！

リアルタイムに
お得情報 GET

「こんなお店あったんだ！」
「あ、セール今日まで！」
「6 時まで特別サービスだ！」

本日
限り
全品 30%OFF

茨木商店街のお店のみの
お得情報・広告が表示される

イバQ?? クイズ、求ム!



参加型クイズアプリ「イバQ」では
茨木に関するクイズ問題を募集しています。
詳しくはアプリをダウンロード！

急ぎで
お願いします!

追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所

50周年記念事業の一環として『事業承継入門』1、2巻を本学出版会より出版いたしました。



50!
追手門学院大学
変わるもん、おうてもん。

追手門学院大学出版会 設立記念出版

事業を承継するために何が必要か
経営学・マーケティング・文化継承の視点から、
多くの例題をとoshi、わかりやすく説明する。

追手門学院大学出版会

追手門学院大学
ベンチャービジネス研究所
[編]
追手門学院大学
出版会

1. 事業承継入門 第1巻 ―事業承継のための経営革新とマーケティング― 発刊の辞…坂井東洋男学長

- ① 八木 俊輔 (追手門学院大学経営学部教授)
「事業承継とサステナビリティ ―勝ち組企業と長寿企業から学べること―」
- ② 有田 健一 (パナソニック(株)客員 NPO地域ルネサンス副理事長元松下環境空調エンジニアリング(株)代表取締役社長)
「企業のサステナビリティ戦略」
- ③ 文能 照之 (近畿大学経営学部教授、博士 (国際公共政策)、中小企業診断士)
「事業承継とイノベーション」
- ④ 村上 喜郁 (追手門学院大学経営学部准教授)
「事業承継における新ビジネス展開の必要性」
- ⑤ 池田 信寛 (追手門学院大学経営学部教授)
「関係性マーケティングとおもてなし」
- ⑥ 牧 美喜男 (公認会計士・税理士、追手門学院大学客員教授)
「伝統・文化承継」

内容紹介

現代企業は厳しい経済状況、経営環境の不確実性に直面する中、いかに持続的競争優位を構築し成長・発展できるかが問われている。そのなかで、事業承継をいかに進めていくべきかが企業経営の現場では切実な課題となっている。本書では、事業承継を、持続可能な企業になるための方策として、企業のサステナビリティ戦略、経営革新、マーケティング、新ビジネス展開の理論として取り上げケーススタディをまじえて考察する。



追手門学院大学出版会 設立記念出版

事業を承継するために何が必要か
「お金」の視点から、税金・資金調達をわかりやすく説明。
さらに、農林水産業における課題・新たな攻めについても解説。

追手門学院大学出版会

追手門学院大学
ベンチャービジネス研究所
[編]

追手門学院大学
出版会

2. 事業承継入門 第2巻 一税金・資金と農林水産業の事業承継

- ① 田淵 正信 (追手門学院大学経営学部教授、公認会計士・税理士)
「事業承継と税金」
- ② 大庭みどり (追手門学院大学非常勤講師、大阪府立大学非常勤講師、税理士、中小企業診断士)
「事業承継、知っておきたい基礎知識と実際に起きた事例の紹介」
- ③ 水野 浩児 (追手門学院大学経営学部准教授、中小企業診断士、中小企業基盤整備機構企業連携支援アドバイザー)
「企業経営とファイナンス」
- ④ 小牧 義昭 (摂津水都信用金庫、理事総合企画部長)
「金融機関の企業評価」
- ⑤ 梶原 晃 (追手門学院大学経営学部教授)
「農林水産業の事業承継—論点と課題」
- ⑥ 葉山 幹恭 (追手門学院大学経営学部専任講師)
「農業の新ビジネス展開と事業承継」

内容紹介

日本経済の全事業中、99パーセントを占める中小企業。会社経営者の高齢化や後継者不足、事業承継が複雑で難しく対策が遅れがちになることが問題となり、話題となっている。本書では、事業承継のための経営管理と税金について、基礎知識から応用まで、事例をまじえて解説する。また、企業経営者がファイナンス（お金の流れ）の本質を正しく理解することの重要性から、金融機関からの借入金（債務）構造などにもふれる。

2013年度ベンチャービジネス研究所 所長・所員・顧問一覧

役 職	氏 名	所 属 等
所 長	田淵 正信	経営学部教授
所 員	池田 信寛	経営学部教授
所 員	岡崎 利美	経営学部准教授
所 員	梶原 晃	経営学部教授
所 員	金川 智恵	経営学部教授
所 員	地代 憲弘	基盤教育機構教授
所 員	朽尾 安伸	経営学部准教授
所 員	長岡 千賀	経営学部准教授
所 員	朴 修賢	経営学部准教授
所 員	葉山 幹恭	経営学部専任講師
所 員	原田 章	経営学部教授
所 員	藤田 正	経営学部教授
所 員	水野 浩児	経営学部准教授

役 職	氏 名	所 属 等
所 員	宮宇地俊岳	経営学部専任講師
所 員	宮崎 崇将	経営学部専任講師
所 員	村上 喜郁	経営学部准教授
所 員	森島 覚	経済学部教授
所 員	八木 俊輔	経営学部教授
所 員	山下 克之	経営学部准教授
所 員	李 建	経営学部教授
顧 問	合田 順一	茨木商工会議所会頭
顧 問	牧 美喜男	客員教授
顧 問	阪田 真二	公認会計士
顧 問	西岡 健夫	経営学部教授
事 務 員	宮下 知子	教育支援課

2014.1.20現在

(50音順)

- ① 2014年度ベンチャービジネス研究所活動に参加して頂ける教員（所員）を募集しております。ベンチャービジネスや事業承継について研究、出版にご参加ください。
- ② 学生研究会会員募集
アプリ制作、起業、事業承継の研究会メンバーを募集しています。
先生方からも学生にお伝え下さい。

Newsletter vol.11

■ 編集・発行 2014年2月1日 印刷
2014年2月1日 発行

■ 編集代表者 田 淵 正 信

■ 印 刷 所 川西軽印刷株式会社

■ 発 行 所 追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所
〒567-8502 茨木市西安威2-1-15
TEL/072(641)7374 FAX/072(643)9597
(事務局 宮下知子)
E-mail: venture@ml.ccile.otemon.ac.jp
<http://www.otemon.ac.jp/investigation/labo/venture/>